

第3章

長岡京市の環境づくりの 取り組みと課題

1 これまでの成果

長岡京市第二期環境基本計画における五つの基本施策及び目標指標について、その進捗は、令和2年度末時点でおおむね計画通りに進捗しており、環境を切り口としたまちづくりや人づくりは、着実にその歩みを進めています。

■第二期環境基本計画成果指標

	基本施策	令和4年度達成目標	令和2年度
1	エネルギーを大切に するまちづくり	再生可能エネルギーの世 帯普及率5%以上	4.65% (平成23年度末基準値1.39%)
2	資源循環型社会の形 成	一人一日当たりの収集ご み量523g以下	539.36g (平成23年度末基準値567.7g)
3	自然環境の保全	西山の森林のCO ₂ 吸収量 1,300t-CO ₂ 以上	1,536.17 t-CO ₂ (平成23年度末基準値1,150.77t-CO ₂)
4	快適な都市環境づく り	住民一人当たり公園面積 の増加	3.32 m ² (平成23年度末基準値2.3 m ²)
5	協働・環境学習・エコ アクションの推進	環境ボランティア養成講 座の延べ受講者数の増加	延べ88人 (平成23年度末基準値0人)

※長岡京市第三期環境基本計画への改定を1年前倒しましたが、元々の第二期環境基本計画の目標年次は令和4年度末です。

また、協働で取り組む先進的な市民活動プロジェクトとして掲げていた「ステップアップ・チャレンジ」については、「西山森林整備推進協議会」において継続的に活動を展開したほか、「省エネモニター事業」や「長岡京環境検定事業」などの個別事業も実施し、市民との連携を深めてきました。

■ステップアップ・チャレンジ成果指標

	テーマ	令和4年度達成目標	令和2年度
1	エコタウン・エコラ イフのシフトアップ	再生可能エネルギーの世 帯普及率5%以上	4.65% (平成23年度末基準値1.39%)
2	西山の魅力アップ	市民参画による西山の森 林整備面積250ha以上 西山の森林のCO ₂ 吸収量 1,300t-CO ₂ 以上	311.94ha (平成23年度末基準値207.42ha) 1,536.17 t-CO ₂ (平成23年度末基準値1,150.77t-CO ₂)
3	環境づくりの市民力 アップ	環境に関するイベント等 に参加する市民数延べ人 数80,000人以上	53,252人 (平成23年度末基準値6,860人)

一方、環境関連計画の一つである旧温暖化対策実行計画における温室効果ガス排出実績は、東日本大震災を契機とするエネルギー政策の転換に伴う電気の排出係数の影響により、上昇・下降と大きなうねりを見せています（20ページ参照）。2018年度実績で、基準年度（1990年度）比29.7%の削減となっており、既に目標を達成しているように見えますが、電気の排出係数が下がっていることや、排出量算定に使う統計数値の推計方法の変更という特殊事情もあり、実態としてエネルギー使用量が大きく下がっているものではありません。21ページの排出係数を固定したグラフのとおり、エネルギー使用量を部門別に見ても、産業部門において大幅な減少が見られますが、それ以外の部門においては、基準年度比で増加しており、2050年ゼロカーボンシティの実現のためには、各部門において一層の取り組みを進めていく必要があります。

■旧温暖化対策実行計画（平成23（2011）年3月策定）

	1990年度基準	2018年度実績	2020年度目標	2030年度目標
長岡京市域の温室効果 ガス排出量削減状況	468千t-CO ₂	329千t-CO ₂	353千t-CO ₂	280千t-CO ₂
	-	▲29.7%	▲25%	▲40%

2 取り組みの現状と課題

(1) エネルギーを大切にすまちづくり

東日本大震災の原子力発電所事故を契機に、エネルギー問題がクローズアップされるようになりました。そのような中、多くの電力を消費するライフスタイルの見直しや、気候変動に影響する温室効果ガスの排出抑制等を推進するとともに、一人でも多くの市民が持続可能な社会づくりに貢献できるまちを目指し、取り組みを進めてきました。

【現状】

- ・ 市役所庁舎、阪急西山天王山駅、中央公民館に電気自動車の充電器を設置
- ・ COOL CHOICE宣言による市民の気候変動対策への参画の促進
- ・ 太陽光発電をはじめとする公共施設への再生可能エネルギーの導入
- ・ 官民連携による小水力発電設備の導入
- ・ はっぴいバス利用者数の増 など

【課題】

- ・ 廃熱や地中熱、水素などの未利用エネルギー等の活用
- ・ 市域における再生可能エネルギー活用ポテンシャルの不透明さ
- ・ 公共施設における消費電力総量に対する再生可能エネルギー比率が低い
- ・ 電気の排出係数に左右される温室効果ガス排出量
- ・ 卒FITの活用検討を含めた自立・分散型エネルギーの仕組みづくり
- ・ 建築物の環境性能の向上
- ・ 「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（令和3年10月1日施行）」の趣旨を踏まえた木材利用の促進 など

(2) 資源循環型の社会の形成

従来的大量消費型の生活は、地球規模での資源の枯渇や廃棄物処理の問題を発生させました。そのような問題に対処すべく、限りある資源の有効利用や、廃棄物の発生抑制といった、環境への負荷ができるだけ小さい資源循環型のまちを目指し、取り組みを進めてきました。

【現状】

- ・ 保育所、小・中学校給食での食品残渣の資源化開始
- ・ 市民団体によるフードドライブやリユースショップ、子ども食堂等の活動
- ・ グリーン・ダウン・プロジェクト開始
- ・ 指定ごみ袋制度の導入
- ・ 上下水道ビジョン(R2～11)の策定
- ・ 地下水100%の水道水供給施設2箇所開設（累計3箇所）
- ・ 小中学校へ雨水貯留浸透施設設置 など

【課題】

- ・不法投棄（家電品等）件数の増加
- ・「食品ロスの削減の推進に関する法律（令和元年10月1日施行）」の趣旨を踏まえた食品ロス削減策の強化
- ・プラスチックをはじめとする使い捨て大量消費の行動様式の見直し
- ・気候変動による渇水の懸念
- ・「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（令和4年4月1日施行予定）」を見据えた施策の検討 など

（3）自然環境の保全

長岡京市のシンボルである西山をはじめ、多くの市民に愛されている小泉川や小畑川などは、CO₂吸収や、水源の涵養、生物多様性の保全といった多面的な役割を果たしています。これらの自然環境を大切に守り育て、次世代に引き継いでいくことを目指し、取り組みを進めてきました。

【現状】

- ・計画的な西山の整備・保全・活用を推進
- ・ふるさと納税活用による生物多様性を意識した森林整備 など

【課題】

- ・農業者の高齢化や担い手不足による耕作放棄地の増加
- ・大型台風による森林被害の増加
- ・生物多様性の保全・啓発
- ・気候変動による農業への影響の懸念
- ・グリーンインフラの活用推進
- ・持続可能な竹林資源の活用方法の不足 など

（4）快適な都市環境づくり

長岡京市においては、東部を中心に都市化が進展し、交通量の増加やそれに伴うCO₂の増加、緑地空間の減少など、都市特有の環境問題が散見されます。そのため、市民が気軽にみどりにふれあうことができ、環境に配慮されたまちづくりを目指し、取り組みを進めてきました。

【現状】

- ・西代里山公園や恵解山古墳公園など地域の魅力を生かした公園を開園
- ・みどりのサポーター制度による市内公園の緑化・維持管理の市民参画の推進
- ・透水性舗装道路の整備
- ・騒音、振動、水質等の各種環境調査の実施、指導など

【課題】

- ・浸水対策事業と連携した雨水排除能力の向上
- ・気候変動の影響による浸水害等への備え
- ・空き家や空き地の適正管理による都市環境維持
- ・グリーンインフラの活用推進 など

(5) 協働・環境学習・エコアクションの推進

長岡京市では、市民や団体、事業者が、環境の取り組みの担い手として活発に活動されています。市民、団体、事業者、行政がそれぞれの役割と責任を果たし、協働・連携する中で、エコアクションの実践の輪が広がる、そのような環境活動の盛んなまちを目指し、取り組みを進めてきました。

【現状】

- ・環境団体・サークル等の担い手発掘に向けた支援
- ・森林ボランティア養成講座の開催
- ・西山をフィールドとした環境学習の実施
- ・市民参加型環境学習会の開催 など

【課題】

- ・環境団体の高齢化、担い手の育成
- ・地域コミュニティにおける環境活動の活性化
- ・持続可能な環境づくりのために行動する人の輪の拡大 など